

北の縄文文化回廊
に向けたクラブ活動



通 信

第 18 号



第3回商工会縄文祭り

目 次

1. はじめに	2
2. 平成27年度活動一覧	2
3. 各活動内容	3
4. 関連活動	6～8

1. はじめに

平成27年度の活動は、会員の皆様のご協力のもと無事終了することができました。縄文遺跡群の世界遺産登録を願い、講演会や遺跡報告会に参加し、知識を深めることができた1年でもありました。3月には、待ちに待った新幹線が北海道にやってきました。本州との距離が一段と近くなり、三内丸山遺跡も身近に感じられるようになりました。これからも、交流の場が増えることを願っています。4月には、大船遺跡内やシーニックバイウエイ北海道 函館・大沼・噴火湾ルートの取り組みに関連した清掃活動や植栽に参加しました。また、土器作りや野焼き・石斧づくりをしました。今後も、道南歴史文化振興財団の活動にも参加協力し、今後も他団体や関係機関と連携しながら世界遺産登録を目指し活動していきたいと思っています。

これからも、さらなる縄文文化の普及活動をしていきたいと思っております。以下、平成27年度の活動内容を報告します。

2. 平成27年度 活動一覧

活動日	主な活動	参加人数	活動場所
4月18日	清掃活動	7名	史跡大船遺跡
4月25日	第18回「北の縄文CLUB」総会	13名	南茅部総合センター
6月27日	石斧づくり	8名	史跡大船遺跡展示館
8月24日	縄文土器づくり	5名	南茅部総合センター
10月3日	縄文土器野焼き	14名	史跡大船遺跡体験広場
10月24日	植物観察会（山歩き）	3名	函館市(垣ノ島遺跡)
2月7日	シーニックdeナイト	20名	縄文文化交流センター

(関連活動)

4月29日	シーニックバイウエイ北海道 函館・大沼噴火湾ルート 清掃活動・植栽	縄文文化交流センター
5月25日	シーニック総会出席	南茅部総合センター
6月6日	ひろめ舟祭り体験コーナー	白尻漁港
7月8日	商工会縄文祭り会議出席	南茅部支所
9月3日	商工会縄文祭り	縄文センター
9月23日	野焼き用薪整理、レンブづくり	函館市
9月27日	第3回商工会縄文祭り	縄文センター
11月3日	南茅部地域文化祭出展及び勾玉づくり体験	南茅部総合センター
11月27日	事務局会議	鹿部町
11月15日	伊達噴火湾考古学 20周年記念講演会出席	伊達市
11月27日	三内丸山応援隊 20周年記念出席	青森市
12月25日	NHK撮影協力	伊達市
3月11日	事務局会議	白尻町

3. 活動内容

(1) 清掃活動

4月18日(土)、午前9時半、史跡大船遺跡に集まり、私達と函館市埋蔵文化財事業団の方々と一緒に遺跡内の清掃活動をしました。すっかり雪も解けて、春らしい陽気となりました。

広々とした遺跡内には春を告げる草花が芽吹き始めていました。てみと移植ごてを持ち、一輪車を押して、何度も行ったり来たりしながら作業をしていきました。広々とした遺跡内をひととおり回りながら、それぞれ世間話をしながらゴミ拾いをしました。



大船遺跡展示館



きれいになりました



まだ少しあるね

(2) 第18回総会

4月25日(土)、午前10時、函館市川汲町にある南茅部総合センターを会場として、第18回総会が行なわれました。ここは新改装して2年目に入ります。



総会では、平成27年度の活動や決算についての報告などを承認していただきました。続いて新年度の活動計画案や予算案についても、沢山の意見が出ましたが承認していただきました。今後、会員数が減っていく中、どうにか増やしていかなければと、事務局全員が努力していこうと決意しました。

(3) 石斧づくり

6月27日(土)、史跡大船遺跡展示館において、石斧づくりを行いました。材料にはアオトラ石を使用します。この石は、縄文時代から石斧の主要材料として利用された緑色岩で、北海道沙流川支流の額平川流域に産出しています。まず、準備していた沢山のアオトラ石の中から一つ選んで、水



石斧づくりに専念

斧を持ってどこへ？

をかけながら砥石を使って磨きます。最初は優しく磨いていたのですが、硬く、優しくしては、磨けません。力のいる作業なので肩や腕が痛くなりました。それでも頑張って磨きました。

そうしているうちに展示館に親子の見学者が来て、私たちに興味を示しましたので「一緒に作ってみませんか」と声をかけました。すると男の子がやってみたいということで、さっそく体験してもらいました。無我夢中でつくっていました。事務局員の指導のかいもあって、完成しました。とても喜んでくれ、見ている私達も嬉しくなりました。

(4) 土器づくり

8月24日(土)、川汲町にある南茅部総合センターにて、土器づくりを行いました。今年のテーマは、縄文後期の下部有孔土器です。この土器は白尻小学校遺跡から出土しています。粘土は、江別産のものを使い、感触をあげながら夢中でこねました。参加者は慣れたもので頭の中に設計図を描きながら、どんどん形ができていきます。昼食の時間もまた楽しいひと時です。活動の時にしか、逢えない方もいるのでいろいろと話題に花が咲きました。午後1時になり、土器作り再開です。だんだん形ができあがってきました。いよいよ文様付けです。撚り糸を縦や横、斜めに転がしていくと、縄文土器らしくなってきました。見本に近い作品ができあがり、笑みがこぼれていました。さっそく来年度の土器づくりに意欲を見せていた方もいました。

(5) 土器野焼き

10月4日(土)、史跡大船遺跡体験広場に8時半に集まり、水汲みや土器の運搬をして、レー

ソバのそばに薪を運ぶなど、下焼きの準備から始まりました。レーンの中に薪を積んで点火します。火が盛んに燃え上がり、火力を維持しながら2時間ほど燃やし続けました。一旦火を弱めてから、レーンの周りに土器を置いていきます。じっくり時間をかけ少しずつ回していきます。底の部分の水分も飛ばすため横にします。徐々に土器をおきの中に入れていきます。



うまく焼けたでしょうか



ステキな土器の完成です



消火しています



レーンを埋め戻します

いよいよ本焼きに、とりかかります。薪を入れて一気に燃やすと、凄まじい炎のため、そばに寄っていくことができないくらいの熱気です。メンバーはタオルで口や顔を覆い、薪を絶やさず足していきました。その合間に昼食の準備をします。縄文鍋の下ごしらえや、鹿肉を串に刺すなど、ほかの人は栗の木の下に行っては、沢山の木の実を拾ったり、キノコを採ったりして楽しんでいました。さて、待ちに待った昼食です。昔もこのような感じだったのでしょか。想像しながら肉や縄文鍋を味わいました。とても美味しかったです。だんだん火も下火になり、いい具合に土器も顔を

出してきました。今回の土器づくりは「下部有孔土器」です。壊れることなく無事焼き上がり、感嘆の声が上がりました。水に入ったバケツも用意され、その中に土器を入れるとジュウジュウ音がします。水に入れることによって、土器の色が鮮やかな煉瓦色になります。皆さん、焼き上がりに満足していました。

(6) 植物観察会

これまで観察会は春に行ってきましたが、今回は10月24日(土)に垣ノ島遺跡で植物観察会を開催しました。発掘調査が史跡内で行われているため、函館市教育委員会の吉田力さんに随行していただきました。当日は雨天でしたが、雨が止むまで縄文文化交流センター内の展示を観覧し、小降りになったので史跡内へ向かいます。当初予定していた史跡内の散策は雨の為、規模を縮小して盛土遺構の発掘箇所の見学を行い、植物観察は次の機会に、となりました。

本年度の垣ノ島遺跡での調査箇所15カ所のうち、3カ所を見学します。盛土遺構の西側外から盛土袖上部、南西部通路へと順次回りました。トレンチの壁に出ている土の堆積の様子や土器などの出土状況に圧倒されます。なかでも盛土西側外のトレンチは、南茅部縄文祭りの際に行われた遺跡見学会から見ると、さらに深くなっています。トレンチ底に出土している土器片は復元すれば個体がいくつあるのかと思うほどでした。本来の植物観察会ができなかったのと、観察するには時期がちょっと遅かったのが残念です。参加者が極少数でしたので、魅力ある内容にしなければと思います。史跡内への立ち入りを許可していただいた、函館市教育委員会にお礼申し上げます。(復朴堂)

(7) シーニックdeナイト2013 (シーニックバイウエイ北海道函館・大沼・噴火湾ルート)

平成28年2月1日(日)、函館市縄文文化交流センター周辺にて、シーニックdeナイトが開催されました。今年は雪が少なく、北の縄文CLUB自慢の国宝中空土偶の雪像を作ることができなくてとても残念でした。キャンドルの設置がおわり、すべてに灯りがともると、幻想的で、心が和みます。今年もまた交流センターの周りをキャンドルの灯りで彩ることができました。

4. 関連活動

(1) ひろめ舟祭り

6月6日(土)、臼尻漁港にて、ひろめ舟祭りが行われました。毎回、北の縄文CLUBは参加しています。体験や事務局手作りのグッズなどを販売しており、特に体験コーナーでは勾玉作りが子供達にはとても好評でした。



(2) 商工会縄文祭り

9月27日(日)、函館市縄文文化交流センター広場前にて、第3回目の「商工会縄文祭り」が開催されました。広場では南茅部高等学校書道部によるパフォーマンスや安浦駒踊り等、北の縄文CLUBでは火起こしやクイズ大会等、縄文センターの中では勾玉や土器づくりの体験など盛りだくさん、最後には世界遺産登録を願い、紅白の餅まきがあり、大いに盛り上がりました。



踊りも披露されました



勾玉上手に作れるかな



沢山の観客です



こうやってやるんだよ

(3) 道南の考古学・・・に参加して

3月19日(土)、知内町中央公民館講堂で開催された郷土資料館ふるさと講座に参加しました。「道南の考古学・・・聞きたいこと知りたいこと～旧石器時代から近年まで～」と題して道内各地域で発掘及び研究にいそしんでこられた、60代から70代の年齢も専門分野も異なる、8人のベテラン歴史考古学者を講師にお招きした講座でした。来場した参加者が事前に質問用紙に記入し、司会者の判断で指名された講師が定説または持論を話してもらう形式で行われました。質疑応答の前に函館市の(中野A遺跡)の発掘調査の映像が残されており、この上映と解説が行われました。この次に、横山英介さんの「アイヌの焼畑農耕」についての講義がありました。「アイヌと農耕」従前のアイヌのイメージにそぐわないという人もいるだろう。しかし、前代・擦文時代に広く行き渡り、場合によっては生業の中心を占めていた畑作農耕がアイヌ文化期に至り、一層充実したものになっていたと判断される。(中浜)

(4) 私の縄文道

縄文時代に生きた人々の精神は、月や太陽、山や海、火山や地震、雷や風、そしてそこにいる人や動物・植物など森羅万象すべてに「いのち」があり、それらには「生と死の循環」があって、それぞれの「いのちはつながっている」というのが私の考えです。こうした縄文人の世界観はその後、「仏教」を中心とした中国の文明や、キリスト教を中心とした西欧文明の影響を受けることによって、変容しながらも、日本文化の基層をなしています。北海道はアイヌの世界観の中に縄文人の精神がとてもよく伝わっている特別なところであり、大切にしなければなりません。

縄文人のメッセージから、今日私達が読み取れることは、すべての生命の尊厳であり、むやみに殺さないこと・殺されないことが原則となります。自然と人間の関係でいえば、生物多様性の確保や持続可能な世界の実現というテーマに、環境破壊や異常気象がもたらす食糧危機や原発廃止問題につながってきます。人間と人間の間では世界平和への希求、核軍縮、グローバリズムと格差社会の問題などにつながってきます。

縄文人のベースに、こうした今日的課題に取り組み、克復しようと精進・努力を続けることが、わたしの縄文道です。 (櫻井)

図書・資料などの寄贈 (敬称略2015.04~2016.04)

札幌縄文探検隊

『さっぽろ縄文探検隊 通信10号~12号』

当別歴史ボランティアの会

『一ふるさとのあゆみを未来につなぐー当別歴史ガイド』

戸蔦別川縄文国道研究会

『アオトラ石関連資料』(沙流川歴史館シンポジウム)

噴火湾考古学研究会

『伊達 遺跡と歴史の散歩道』(伊達市教育委員会)

櫻井弘之

『称名寺貝塚』図録(横浜市立歴史博物館)

三内丸山応援隊

『三内丸山応援隊』 設立20周年記念DVD

御寄贈有難うございました。

2016年10月31日 第18号発行
発行 北の縄文CLUB
連絡先 北海道函館市白尻町603-1
一般財団法人
道南歴史文化振興財団内
TEL 0138-25-5510
FAX 0138-25-5606